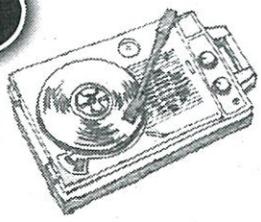
月刊ポストは 2018.12.10(月)発売号

名曲カルテ

昭和歌謡といつまでも

第60回 誰もがみんな知っている覆面歌手のおもしろさ

堀井六郎
絵・松本 浦



2年前の平成28年12月、ミリタリールックを身にまとった「The KanLeKeeZ」というバンドがアルバム『GS・ミーツ・ザ・カンレキーズ』でデビュー、全員還暦越えの最年長新人バンド、「遅れてきた謎のGS」と一部で話題になりましたが、その実体はアルフィーの三人組であることがジャケットを見ただけでわかる、という彼らの遊び心でした。

アルフィーには楽しい前科があって、昭和56年当時、世界中で大ヒットしていた、コピーバンドによるビートルズ・メドレー『スターズ・オン・45』(邦盤タイトルは『ショッキング★ビートルズ45』)にあやかって、覆面バンド「BEAT BOYS」名で「スターズ★オン23吉田拓郎」をリリース。ジャケットまでそっくりでしたが、坂崎幸之助が想いをこめて拓郎ソングを次々と歌いあげる熱唱は、拓郎ファンの私にとって感動的でありました。

ミリタリールックもスターズ・オンも、どちらもビートルズがルーツですが、そのビートルズを日本で最初にパロディーにしたのは加藤和彦率いるザ・フォーク・クルセダーズでした。昭和43年、ザ・ズートルビー名義で『水虫の唄』を発表、ジャケット写真には一人加え、全員変装して覆面バンドをでっち上げたうえ、メンバーの顔がすぐに割れてしまうよう、遊んでくれました。

昭和63年、海外では、トラヴェリング・ウィルベリーズと名乗る覆面バンドが突然登場、世界中のファンを楽しませたメンバーとは、元ビートルズのジョージ・ハリスン、ボブ・ディラン、ロイ・オービソンといった豪華版で、ジョージの人柄と交友関係が実を結んだ友情バンドでしたが、オービソンの急死でライブ活動は行なわれずに消滅しました。

昭和45年、主演ドラマ『おくさまは18歳』でブレイクする前に『しあわせの涙』でレコードデビューした岡崎友紀は、人気に翳りが見られるようになった10年後の昭和55年、覆面歌手「YUKI」名義でシングル盤をリリース、従来のような歌謡ポップスから曲調や発声を変えて発表したのが『ドゥー・ユー・リメンバー・ミー』(曲・加藤和彦)でした。

大瀧詠一の『夢で逢えたら』ほどではありませんが、カバー曲として歌われる機会の多い人気曲で、どちらもビートルズやジョン・レノン、ジョージ・ハリスンのアルバム・プロデューサーとして知られたフィル・スペクターのサウンドを意識した作品です。

昭和58年、名前を変えて再登場したわけではありませんが、名前を伏せたことで短期間、覆面歌手的状況を作って私たちを楽しませてくれたのが「SWEET MEMORIES」です。松田聖子の新曲『ガラスの林檎』のB面としてすでに発売されていた曲にもかかわらず、それを知らずにビールのCMの中で涙するアニメのペンギン同様、ボーカリスト松田聖子の新たな魅力に酔わされてしまった私でした。

ほりい・ろくろう　昭和27年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業後は25年にわたる出版社勤務を経て独立。現在は出版社経営の他、ライターとしても活躍。『私的「昭和大衆歌謡考」』第4集『しあわせになろうね』(グスコー出版)が好評発売中